

第3回健康寿命日本一おおいた創造会議 委員等の主な意見

- ・平成28年の健康寿命推進月間では、9月から11月にかけて319のイベントが実施され、約83,505人の県民参加があった。
- ・健康寿命推進月間中の取組としてウォーキングイベントを開催した結果、新規参加者のうち、約1割が本タイアップによる参加であった。
- ・「目指せ！健康寿命日本一おおいたロゴマーク」も活用して、地道に健康寿命延伸の取組を行っているが、今後は、創造会議のメンバーとも連携して取り組みたい。
- ・看護の視点から見たモノづくりは大きな利点があり、昨年11月に医療ロボット・機器産業協議会に看護関連機器開発部会を設置した。また、フォーラムも開催し、多くの企業から参加があった。
- ・うま塩弁当を各店舗で販売しているが、販売実績も上がっている。また、各食品メーカーとも連携して新たな減塩の商品も完成し大好評となっている。今後も大分県が推進する目指せ健康寿命日本一に同調した商品の提供を行っていききたい。
- ・元気なシニア層を増やすために、今回初めてイベントを開催したが、多くの参加者があった。今後も楽しみながら毎年開催していききたい。
- ・厚生労働省が推進している健康サポート薬局は、地域住民の健康相談等に対応すべく、今後、増やしていききたい。
- ・健康寿命日本一のために、医科学的なものから今後、県民公開講座を開催する予定。
- ・これまで年1回、10回程、子育て博覧会を開催してきたが、今後は、健康寿命も取り入れ3世代交流イベントとして開催していききたいので、創造会議の各団体にも参加願いたい。
- ・退職後の人生をどのように過ごすかということで、ボランティアをインターンシップで体験してもらおう企画を提案し、生きがいづくりにつなげていきたい。
- ・総合型スポーツクラブとして、特別な器具を使わず手軽にできるトレーニング方法としての貯筋運動の推進を図っていききたい。
- ・このような健康寿命の取組を県民にもっと伝えていく必要があるため、県のホームページ等で知らせてほしい。